

講義コード	3N036011
講義名	リスクマネジメント論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N3-4103
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 島本 順子	指定なし

担当教員

島本 順子

講義の目的

看護職は最も患者の近くにおいて、ケアや処置を実施する職種である。治療や処置の最終実施者であることが多く、医療事故の当事者となる可能性も高い。事故発生メカニズムと発生防止の考え方を学び、医療事故を回避する知識と行動を身に付けることが重要である。この科目では医療安全の動向から組織的な取り組みやセーフティマネージメントを理解し、主体的に安全を守るすべを学ぶことを目的とする。

到達目標

1. 医療安全に関する用語と動向を理解する
2. 事故が起きる要因や背景を理解する
3. 看護業務に関わる医療事故と対策を理解する
4. 医療安全のために自分自身が果たすべき役割について考える

授業計画表

授業計画

1. 医療安全に関する基礎知識
2. 医療安全への取り組み
3. ヒューマンエラーのメカニズム
4. 事故対策と安全文化
5. 看護における医療事故と対策 (1)
6. 看護における医療事故と対策 (2)
7. 事故後の対応、実習と安全

成績の評価

レポート2回の提出で評価する

(①基礎知識と用語の理解に関して ②分析と対策に関して)

自己学習

講義の中で事前準備や、討議後のレポート提出を示していく

履修上の注意
グループ討議を組み込む予定であるので、討議が速やかに行われるよう迅速な行動、活発な発言を期待する
テキスト
「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」(メディカ出版)
参考文献
講義の中で適宜紹介する

講義コード	3N089011
講義名	看護マネジメント論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N3-4102
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 関西医療 教員	指定なし

担当教員

平山 三千代

講義の目的

看護管理の概念を理解し、良質の看護サービスが提供するために必要な知識を体系的に学ぶ。

到達目標

1. マネジメント、看護管理の概念が理解できる。
2. ナイチンゲールの小管理を理解し、看護実践のマネジメントをシステムとしてとらえることができる。
3. 医療・看護チームにおける協働が理解できる。
4. 人的・物的資源管理が理解できる。
5. 看護サービスの質保証と評価・改善が理解できる。

授業計画表

授業計画

- 第1回 1. 看護、管理、看護管理とは何か
- 第2回 1. 管理のもととなる経営管理論
- 第3回 1. 歴史からみた看護管理
1) ナイチンゲールの小管理
2) 日本における看護管理の発祥
- 第4回 1. 組織の成り立ちと病院の基本的構造
2. 医療・看護チームにおける協働
- 第5回 1. 業務遂行のマネジメント
1) 人的・物的資源管理
2) 情報の管理
- 第6回 1. 一日の業務の組立てと多重課題への対応
- 第7回 1. 看護サービスの質保証と評価・改善

成績の評価

- ・ 筆記試験 : 70点
- 30

・課題レポート： 点

履修上の注意

・第3回までにフロレンス・ナイチンゲール著『看護覚書き』三章「小管理」を読み課題レポートをまとめておく。

テキスト

「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理」医学書院

参考文献

講義の中で適宜紹介する。

講義コード	3N126011
講義名	研究方法論基礎
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	総合実践看護学
科目ナンバリング	N3-4104
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 辻 幸代	指定なし

担当教員

辻幸代

講義の目的

近代看護の創始者であるF.ナイチンゲールは、さまざまなデータを科学的に分析し、発表することによって、看護職が社会貢献できる専門職であることを示した。また、学士課程におけるコアとなる能力の一つに根拠に基づいた看護を提供する能力があり、基本的な看護研究に関する学習の必要性が述べられている。そこで、この科目は、看護に関して疑問を持ち、それを科学的に解明するための基礎的な方法について学ぶ。

なお、当該科目は、「キャリア教育科目」に指定されている。看護学を学び資格を取得した上で、自らが卒業後の職業を選択し将来的にその現場で活躍、貢献できるよう当該科目の授業の一部で「考える力」「実践する力」を養う。

到達目標

1. 研究の意義を述べることができる。
2. 研究のプロセスを述べることができる。
3. 研究デザインの概要を述べることができる。
4. 研究計画書の作成プロセスを体験的に学ぶことができる。
5. 研究における倫理的課題を述べることができる。
6. 研究に興味・関心を示すことができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンスと看護研究とは何か？
2. 研究論文の読み方
3. 研究疑問と文献検討の方法
4. 研究方法の概要
5. 質的研究と量的研究の特徴と違い
6. 質的研究の特徴 1
7. 質的研究の特徴 2
8. 量的研究の特徴 1

- 9. 量的研究の特徴2
- 10. 朝敵研究の特徴3
- 11. 研究計画書の意義と内容
- 12. 研究計画書の作成1
- 13. 研究計画書の作成2
- 14. 研究における倫理的配慮
- 15. まとめ

成績の評価

期末試験80%とレポート20%で評価する。

自己学習

研究計画書の作成を通して授業をするめるので、授業中に提示する課題をすること。

履修上の注意

授業内でグループワークを取り入れて行うので、積極的に議論に参加すること。

テキスト

「系統看護学講座 別巻 看護研究」(医学書院)

参考文献

授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

水曜日 (12:10~13:10) とします。

研究室

5号館7階C707研究室

授業用E-mail

s.tsuji@kansai.ac.jp

講義コード	3N146011
講義名	在宅看護学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3414
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎田 聖子	指定なし

担当教員

前久保 恵・榎田 聖子・鹿島 英子

講義の目的

疾病や障害をもちながら地域で暮らす人々と家族が個々の能力を発揮し、その人らしくQOLの高い生活を送れるよう支援する看護の実際と地域生活を支える保健福祉サービス、関係機関・職種の連携について学び、地域における看護職の役割を考える。

到達目標

- 1 在宅療養者および障がいをもつ人の健康障害や生活状況を理解し、それらが安全・安心のある生活を継続する視点から生活全体に与える影響について考えることができる。
- 2 在宅療養者および障がいをもつ人ができるだけこれまでの生活を維持し、QOLの高い地域生活を送るために必要な支援・援助の方法を本人主体に考えることができる。
- 3 在宅療養者および障がいをもつ人と家族の個別性に応じた支援を考え、関わるることができる。
- 4 社会資源活用や関係者の連携が在宅療養および地域生活の継続を支えていることを理解し、地域における看護職の役割を考えることができる。

授業計画表

授業計画

1 本実習は訪問看護実習6日、障がい者福祉施設実習4日の実習である。詳細については3年次後期9月に在宅看護学実習要項A・Bに沿ってオリエンテーションを行う。

2 実習内容についての具体的なオリエンテーションは、上記9月のオリエンテーションとは別に実習前にグループ毎に行う。

成績の評価

実習目標到達度、実習態度、実習記録、事前学習などを総合的に評価する。詳細については実習要項を参照する。

自己学習

1 授業での提示および在宅看護学実習要項に示された事前学習は最低限行うこと。

- 2 基礎看護技術は自己演習も含め復習する。
- 3 信頼関係を築くコミュニケーションのとり方について復習する。
- 4 人のライフステージごとの身体・精神・社会面の状態を復習しておく。

履修上の注意

- 1 健康管理を行い欠席・遅刻がないようにする。
- 2 社会的なルールやマナーを遵守すること。
- 3 対象者・障がい者・家族の気持ちに寄り添った積極的な体験学習を期待するが、詳細は同行させて頂く看護師に確認する。
- 4 時間厳守で、挨拶・笑顔を忘れないこと。

テキスト

- 1 在宅療養と看護、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱの講義および関連課目で用いたテキストや講義資料
- 2 「第4版 公衆衛生看護学.jp」(インターメディカル)荒賀直子他著
- 3 障がい者と感染症の保健活動(障がい者保健福祉活動)での配布資料
- 4 実習に際して配布する資料

参考文献

- 1 「国民衛生の動向2014/2015」(厚生統計協会)
- 2 適宜紹介する

講義コード	3N164011
講義名	小児看護学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3210
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員

津島 和美 西田紀子

講義の目的

小児看護に必要な既習の知識や技術を活用し、子どもを取り巻く環境が子どもの成長発達に影響を及ぼすことを理解するとともに、さまざまな健康状態にある子どもと家族への小児看護が実践できる基礎的能力を養う。

到達目標

- 1.子どもに合わせたコミュニケーションを展開することができる。
- 2.子どもの成長発達の特性と成長発達の支援の方法を学ぶことができる。
- 3.治療や入院が子どもと家族に及ぼす影響因子がわかり、健康状態と成長発達に必要な看護を実践することができる。
- 4.子どもの成長発達で生じやすい事故と安全管理を考えることができる。
- 5.小児医療チームにおける小児看護専門職の役割と責任について学ぶことができる。

授業計画表

授業計画

*詳細は小児看護学実習要項参照

成績の評価

小児看護学実習評価表に基づく評価(95%) 平常点(5%)

自己学習

1. 実習オリエンテーションで必要最低限度の課題を提示する。
2. 実習中、必要な自己学習は進んで行うこと。

履修上の注意

1. 目的意識を常にもって臨むこと。
2. 自身の言動・行動が子どもや家族に影響を及ぼすことを意識して行動する。
3. 健康管理に留意し体調を整え実習に臨む。
4. 自己判断で行動しない。

テキスト

テキストは指定しない。

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

・事前に連絡下さい。

研究室

5号館7階C704研究室

授業用E-mail

tushima@kansai.ac.jp

講義コード	3N237011
講義名	精神看護学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3313
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員

和田幸子・川端明雄

講義の目的

対象者とのかかわりを通じて、生命の尊厳、人間としての基本的な権利とその家族への理解を深める。また、日常生活や対人関係に困難を抱えている人々と治療的な関係を築く過程で、援助者としての自己をケアの道具として最大限に生かし、対象者が自己決定能力を養えるよう個別性を尊重したケアとのかかわりを実践できる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 対象者を精神保健医療上の観点から総合的に理解することができる。
2. 対象者と治療的かかわりをおして相互成長することができる。
3. 対象者に対してセルフケア理論を活用した看護過程を展開できる。
4. デイケア利用者の生活状況および施設の役割を理解できる。
5. 医療従事者の一員として役割を自覚した行動ができる。

授業計画表

授業計画

詳細は精神看護学実習要項を参照のこと。

成績の評価

実習目標の達成度から構成される実習評価表60%、評価面談による総合評価25%、平常点15%

自己学習

入院形態、行動制限、統合失調症、双極性障害、薬物療法、精神科デイケア、作業療法、患者の権利擁護、セルフケアの援助、患者 - 看護師関係の発展と終結などについて学習しておく。

履修上の注意

健康管理に注意し、看護学生としてふさわしい態度で実習に臨む。対人関係における学生自身の傾向や課題、感情に気づけるようにする。実習グループメンバー同士での意見交換や情緒的支援を心がける。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種のつながり（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集
「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

参考文献

適宜紹介する

オフィスアワー

研究室に在室している場合にはいつでも対応します。

研究室

5号館7階C702研究室（和田） 5号館7階C721（川端）

授業用E-mail

s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	3N321011
講義名	母性看護学実習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3209
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員

田中静枝、井上京子、有馬美保、三宅美恵子、生駒妙香

講義の目的

周産期にある対象の援助場面を通して、健康上の課題を総合的に把握し、個別性の理解を行い、問題解決に向けた看護を計画・実践・評価する基礎能力を養う。また、生命誕生の神秘や偉大さを学ぶと共に、健全な次世代育成の課題についても考える機会とする。

到達目標

ウェルネスの視点から周産期にある対象の健康状態について理解し、対象に必要な基礎的な看護援助を実践できる。

授業計画表

授業計画

母性看護学実習要項参照

成績の評価

実習到達度70%、実習態度16%、課題点10%、平常点4%にて評価する。

自己学習

母性看護学方法論の授業内容の復習を必ず行う。
実習前の事前学習課題は熟考し頭にいれ実習に臨むこと。

履修上の注意

- 1.健康管理に留意する。
- 2.ルールやマナーを遵守する。
- 3.看護学実習要項を把握しておく。
- 4.目標を明確にし、主体的に取り組む。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版
母性看護技術：メディカ出版

参考文献

病が見える産科：MEDIC MEDIA
ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院
周産期ケアマニュアル：医学芸術社
母性看護実習ガイド：照林
母乳育児支援スタンダード：医学書院
ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前に連絡を入れること

研究室

C703研究室 田中静枝
C712研究室 井上京子
C709研究室 有馬美保
C717研究室 三宅美恵子、生駒妙香

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	3N510011
講義名	医療英語
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	言語とコミュニケーション
科目ナンバリング	GE-1310
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
非常勤	◎ 入交 重雄	指定なし

担当教員

入交重雄

講義の目的

医療英語の運用能力を高めること。

到達目標

医療英語の習得。
日本医学英語検定試験4級程度のレベル。

授業計画表

授業計画

- 1 オリエンテーション、総合医学英語テキスト発熱
- 2 総合医学英語テキスト 発熱
- 3 総合医学英語テキスト 貧血
- 4 総合医学英語テキスト 貧血
- 5 総合医学英語テキスト 脱水症
- 6 総合医学英語テキスト 脱水症
- 7 総合医学英語テキスト 肥満
- 8 総合医学英語テキスト 肥満
- 9 総合医学英語テキスト 頭痛
- 10 総合医学英語テキスト 頭痛
- 11 総合医学英語テキスト 胸痛
- 12 総合医学英語テキスト 胸痛
- 13 総合医学英語テキスト 咳
- 14 総合医学英語テキスト 咳
- 15 総括

成績の評価

20

80

平常点 点、期末試験 点

自己学習

テキスト内容の音読、CD/ダウンロード音声のリスニング

履修上の注意

テキスト、辞書、ノート必携

テキスト

総合医学英語テキスト Step1 (メジカルビュー)2016年

医学英語 Communication & Writing 能力アップ!

参考文献

日本医学英語検定試験3・4級教本 2015年

講義コード	3N511011
講義名	保健統計学演習
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	看護にいかす生活と保健
科目ナンバリング	N3-2308
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし

担当教員

安藤仁朗、西井崇之、平尾恭子

講義の目的

地域の保健統計および健康指標に関する様々な情報から、地域住民の健康課題を明確化するための地域診断の方法を体験的に習得する。さらに、統計手法を用いて住民の健康や生活に関わる量的データを解析することを通して、保健および看護活動に活かすための基礎的能力を養う。

到達目標

1. 地域診断の目的、方法を理解し、必要となる情報を収集し、整理できる。
2. 表計算ソフト（Excel）を用いて収集した情報を分析し、健康課題を抽出できる。
3. 住民の健康や生活に関わる量的データを分析するための基本的な統計手法を理解できる。
4. 分析ツールを用いて量的データを解析することができる。

授業計画表

授業計画

1. 地域診断とは
2. Excel操作
3. 情報収集、情報の整理、分析①
4. 情報収集、情報の整理、分析②
5. 情報収集、情報の整理、分析③
6. 情報収集、情報の整理、分析④
7. 情報収集、情報の整理、分析⑤
8. 健康課題の明確化
9. 発表資料の作成
10. 発表資料の作成
11. グループ発表
12. 基本的統計手法
13. 統計データの利用と解析①
14. 統計データの利用と解析②
15. 統計データの利用と解析③

成績の評価

グループによる成果物（40%）、レポート（40%）、平常点（20%）

自己学習

2年次に履修した保健統計学、疫学の授業内容を復習しておいてください。

履修上の注意

- ・保健師課程の選択科目になっていますが、保健統計データの処理および統計手法を用いたデータの解析は看護師にも必要です（特に看護研究ではその知識・スキルが求められます）。保健師課程選択者以外の学生も是非履修してください。
- ・グループワークには積極的に参加し、主体的に作業に取り組んでください。

テキスト

- ・適宜、プリントを配布します。

参考文献

- ・国民衛生の動向2016/2017（厚生労働統計協会）
- ・基礎からわかる看護統計学入門 第2版（医歯薬出版）大木秀一著

研究室

西井：5号館7階C721研究室

授業用E-mail

nishii@kansai.ac.jp

講義コード	3N512011
講義名	臨床看護実践論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	基礎看護学
科目ナンバリング	N3-3108
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 松下 直子	指定なし

担当教員

松下直子、山根木貴美代

講義の目的

臨床で必要とされる看護技術の中で侵襲的な技術である注射、経管栄養法、導尿について学修する。さらにそれらの看護技術を患者の状況に合わせ、安全に実践するためのプロセスを主体的に学ぶ。演習を通して看護実践を支える倫理感を高める。

到達目標

- 1.注射、経管栄養法、導尿についての知識を修得することができる。
- 2.グループワークを通して主体的に事例患者の状況に合わせた看護援助を考えることができる。
- 3.安全、安楽な看護援助を実施することができる。
- 4.実施した看護を振り返ることができる。
- 5.演習を通して倫理的な態度を養うことができる。

授業計画表

授業計画

- 1.ガイダンス、与薬に関する知識
- 2.与薬に関する知識
- 3.与薬に関する知識（筋肉内注射、直腸内与薬）
- 4.与薬に関する演習（筋肉内注射）
- 5.与薬に関する知識（静脈内注射の実施と管理）
- 6.与薬に関する演習（静脈内注射の実施と管理）
- 7.栄養（経管栄養法）に関する知識
- 8.栄養（経管栄養法）に関する演習
- 9.排泄（摘便、浣腸）に関する知識
- 10.排泄（一時的導尿、膀胱留置カテーテル）に関する知識
- 11.排泄（一時的導尿、膀胱留置カテーテル）に関する演習
- 12.安楽に関する看護技術（罨法）
- 13.看護技術の統合
- 14.看護技術の統合

15.まとめ

成績の評価

筆記試験80%、小テスト・演習記録、および平常点20%にて評価する。

自己学習

テキストの該当箇所を事前に読んで学修内容を把握しておく。

履修上の注意

- 1.方法や手順にだけ注目するのではなく、それぞれの技術の原理・原則、根拠を理解する。
- 2.演習では演習記録の課題がある。
- 3.演習は臨床場面を想定して行うので、実習室では看護者としての心構え（身だしなみ）をもって望む。

テキスト

- 1.「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②」（医学書院）
- 2.「系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③」（医学書院）
- 3.「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」（医学書院）
(1.2.3ともに1年次に購入)

参考文献

授業で適宜紹介する。

オフィスアワー

火曜日12：00～13：00

研究室

5号館C716号室

講義コード	3N513011
講義名	母性看護方法論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3203
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員

田中静枝、井上京子、有馬美保、三宅美恵子、生駒妙香

講義の目的

女性の一生の中で、最も母性機能を発揮する妊娠・分娩・産褥期にある母子とその家族の特徴を理解し、ハイリスクの対象に適切な看護を実践するための方法を学修する。

到達目標

1. 周産期にある、ハイリスクの対象に必要な看護援助について述べるができる。
2. 母子とその家族の看護を実践するために必要な基礎的な技術を実践することができる。

授業計画表

授業計画

1. 妊娠期の異常と看護
2. 妊娠期の異常と看護
3. 妊娠期の異常と看護
4. 妊娠期の看護（妊婦計測 NST・レオポルド）
5. 分娩期の異常と看護
6. 分娩期の異常と看護
7. 産褥期の異常と看護
8. 新生児の看護（検温・沐浴）
9. 産褥期の異常と看護
10. 産褥期の異常と看護
11. 新生児の異常と看護
12. 新生児の異常と看護
13. 特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援
14. 特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援
15. 特殊なニーズを持つ妊産婦と家族への支援

成績の評価

試験80%・小テスト20%にて評価する

自己学習

指定されたテキストでの事前学習は必須である。

履修上の注意

母性看護学実習に必須な科目である、真摯な姿勢で取り組むこと。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版

母性看護技術：メディカ出版

参考文献

病気が見える産科：MEDIC MEDIA

母性看護学1妊娠分娩：医歯薬出版株式会社

母性看護学2産褥・新生児：医歯薬出版株式会社

母性看護学：医学芸術社

系統看護学講座 専門25 母性看護学各論 医学書院

母乳育児支援スタンダード：医学書院

妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW

オフィスアワー

随時可能も事前の予約の事

研究室

C703研究室 田中静枝

C712研究室 井上京子

C709研究室 有馬美保

C717研究室 三宅美恵子、生駒妙香

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	3N514011
講義名	母性看護展開論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3204
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員

田中静枝、生駒妙香

講義の目的

チームで協働し、事例の対象者を総合的に理解してエビデンスに基づく具体的な看護について考える事ができる。

到達目標

1. 周産期にある母子の援助に必要な基礎的実践技術を理解することができる。
2. 周産期における対象者の看護過程の展開ができる。
3. TBL (team-based learning) を用いた学習によって主体的・対話的に課題を解決していく中で、協働する力を身につけることができる。

授業計画表

授業計画

1. TBLガイダンス・チーム編成
2. 事例で学習する妊婦の支援
3. 事例で学習する妊婦の支援
4. 事例で学習する産婦の支援 (GW)
5. 事例で学習する産婦の支援 (産痛緩和・補助動作)
6. 事例で学習する褥婦の支援
7. 事例で学習する褥婦の支援
8. 事例で学習する褥婦の支援 (GW)
9. 事例で学習する褥婦の支援(褥婦の観察)
10. 事例で学習する母乳育児支援
11. 事例で学習する母乳育児支援 (母乳観察)
12. 事例で学習する母乳育児支援
13. 事例で学習する新生児の支援
14. 事例で学習する新生児の支援
15. まとめ

成績の評価

個人テスト18%とチーム得点+ピア評価 42%
定期試験40%で総合的に評価する。

自己学習

TBLには個人テストやチームテストがあるため、自己学習が不可欠です。

履修上の注意

授業時間内の携帯電話使用は禁止します。

テキスト

母性看護実践の基本：メディカ出版
母性看護技術：メディカ出版

参考文献

病気が見える産科：MEDIC MEDIA
母性看護技術：医学書院
周産期ケアマニュアル：医学芸術社
母性看護学実習ガイド：照林社
ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院
母乳育児支援スタンダード：医学書院
妊娠・出産ケアガイド：医学書院MYW
ウエルネスからみた母性看護過程：医学書院
母性看護実習プレブック 看護過程の思考プロセス：医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

随時可能も事前に予約を入れること。

研究室

5号館7階C703研究室（田中）
5号館7階C717研究室（生駒）

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	3N515011
講義名	小児看護方法論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3207
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員

津島 和美 西田 紀子

講義の目的

様々な健康問題がある子どもと家族に及ぼす影響を理解する。小児に生じやすい症状、疾患を基に子どもの健康状態のアセスメントの方法や発達段階を考慮した子どもと家族の看護を実践するための基礎的知識、技術とその活用方法を学ぶ。

到達目標

1. 健康状態のアセスメントの方法を述べることができる。
2. 小児看護技術の原理・原則を述べることができる。
3. 発達段階に応じた支援の工夫を考えることができる。

授業計画表

授業計画

1. 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護①
2. 病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護②
3. 子どものヘルスアセスメントと観察技術①
4. 子どものヘルスアセスメントと観察技術②
5. 治療・検査・処置を受ける子どもと家族の看護①
6. 治療・検査・処置を受ける子どもと家族の看護②
7. 症状メカニズムと必要な看護
8. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護①
9. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護②
10. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護③
11. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護④
12. 健康問題をもつ子どもと家族の経過と看護⑤
13. 身体障がい、発達障がいをもつ子どもと家族の看護①
14. 身体障がい、発達障がいをもつ子どもと家族の看護②
15. まとめ

成績の評価

期末試験(90%) 課題(10%)

自己学習

決められた課題や必要な事前学習を行い臨むこと。

履修上の注意

- ・目的意識をもって臨む。

テキスト

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 奈良間 美保他
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 奈良間 美保他
- ・小児看護実習ガイド 照林社 筒井 真優美監

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日

研究室

5号館7階C704研究室

授業用E-mail

tushima@kansai.ac.jp

講義コード	3N516011
講義名	小児看護展開論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	成育看護学
科目ナンバリング	N3-3208
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 津島 和美	指定なし

担当教員

津島 和美 西田 紀子

講義の目的

小児看護実践の特徴をふまえた小児看護方法論Ⅱと並行しながら病気や障がい等の健康問題をもつ子どもと家族の理解を深め、小児看護を実践するための基礎的知識・技術・態度とそれらの活用方法を学ぶ。

到達目標

1. 小児看護を実践するための思考過程を説明することができる。
2. 安全・安楽・自立を考慮した小児に必要な支援技術を実施することができる。
3. 小児看護を実践するための自己の課題を表現することができる。

授業計画表

授業計画

1. 小児看護を考えるための看護過程①
2. 小児看護を考えるための看護過程②
3. ヘルスアセスメントに関する演習
4. ヘルスアセスメントに関する演習
5. 発達段階、健康問題に関する事例検討①
6. 発達段階、健康問題に関する事例検討②
7. 発達段階、健康問題に関する事例検討③
8. 課題演習①
9. 課題演習②
10. 発達段階、健康問題に関する事例検討④
11. 発達段階、健康問題に関する事例検討⑤
12. 発達段階、健康問題に関する事例検討⑥
13. 身体障がい、発達障がいをもつ事例検討①
14. 身体障がい、発達障がいをもつ事例検討②
15. 小児看護の課題

成績の評価

期末試験(80%) 課題(10%) 演習課題(10%)

自己学習

授業・演習に必要な課題や自己学習は必ず行う。

履修上の注意

- ・目的意識をもって臨む。
- ・復習する習慣をつける。
- ・演習の具体的な内容は授業の中でオリエンテーションを行う。

テキスト

- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 医学書院 奈良間 美保他
- ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 医学書院 奈良間 美保他
- ・小児看護実習ガイド 照林社 筒井 真優美監

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

月曜日

研究室

5号館7階C704研究室

授業用E-mail

tushima@kansai.ac.jp

講義コード	3N519011
講義名	成人看護方法論Ⅲ（回復期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3304
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井村 弥生	指定なし

担当教員

井村 弥生 児嶋 章仁

講義の目的

健康障害を持つ対象者が生活の自立や社会復帰に向けての看護、保健活動について学ぶ。また、各疾患における特徴的な回復期の看護について学ぶ。

到達目標

1. リハビリテーションの意義やその中での看護の役割について述べるができる。
2. 障害受容と生活の再構築、社会復帰への看護について具体的に述べるができる。
3. 健康問題の治癒過程と回復過程にある対象者とその家族に必要な援助を思考し、看護実践方法について述べるができる。

授業計画表

授業計画

1. 回復期看護の概念・看護
2. 機能障害と日常生活動作のアセスメント・代償機能の獲得
3. 居住環境アセスメント・心理葛藤への対応・社会参加の援助
4. 廃用症候群の予防・慢性関節リウマチで膝人工関節置換術後の看護
5. 呼吸機能障害のある患者の看護・肺切除後の看護
6. 循環機能障害のある患者の看護・心筋梗塞・冠状動脈バイパス術後の看護
7. 機能障害を持ちながら生活する人の看護・胃切除術後の看護
8. 中枢神経系の障害と看護・頸椎損傷患者の看護
9. 中枢神経系の障害と看護・脳血管障害患者の看護①
10. 中枢神経系の障害と看護・脳血管障害患者の看護②
11. 女性生殖器疾患患者の看護・乳房切除術を受ける患者の看護ボディイメージの変化への対応
12. 女性生殖器疾患患者の看護・子宮切除術を受ける患者の看護
13. 排泄機能障害のある患者の看護・膀胱がん
14. 感覚機能障害を持ちながら生活をする人の看護・聴覚障害
15. 感覚機能障害を持ちながら生活をする人の看護・視覚障害

成績の評価

筆記試験80%、レポート10%、平常点10%、総合的に評価する。

履修上の注意

解剖・生理学、病態学、疾患学などの基礎的疾患の学習を深めておくこと。

テキスト

「系統看護学講座 成人看護学 2 (呼吸器)、3 (循環器)、5 (消化器)、7 (脳・神経)、8 (腎・泌尿器)、9 (女性生殖器)、10 (運動器)、13 (眼)、14 (耳鼻咽喉)」 (医学書院)

参考文献

池西静江, 小山敦子他: アセスメントに使える 疾患と看護の知識, 照林社, 2016.

研究室

5号館7階C718研究室

講義コード	3N520011
講義名	成人看護方法論Ⅳ（終末期）
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3305
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北得 美佐子	指定なし

担当教員

北得 美佐子, 野田部 恵

講義の目的

がん、その他の疾患により終末期にある人々の身体的・心理的反応の特徴について学び、人生の終焉を迎える人々に関する尊厳およびその家族に及ぼす影響について理解する。また身体的・精神的・社会的・スピリチュアル的な苦痛を抱える対象やその家族の特徴について学び、緩和ケアが必要な成人期の人々のQOLの維持・改善、倫理問題などを理解する。

到達目標

- ・終末期看護の基本的な考え方を理解できる。
- ・終末期患者を取り巻く状況の変化や現在の課題について理解できる。
- ・終末期患者のアセスメントの視点・緩和ケアについて理解する。
- ・終末期および緩和ケアにおける多職種チームアプローチの必要性について理解できる。
- ・終末期ケアを提供する看護師に求められる基本的態度について理解できる。

授業計画表

成人看護方法論Ⅳ（終末期）

授業計画

1. 終末期・緩和ケアの現状と課題,終末期にある患者の特徴
2. がんの治療を受ける患者の看護（化学療法）
3. がんの治療を受ける患者の看護（放射線療法）
4. がんの治療を受ける患者の看護（化学放射線療法）
5. 疼痛アセスメントと援助
6. 症状マネジメント（浮腫,食欲不振,便秘,呼吸困難,食欲不振,せん妄）
7. 症状マネジメント（浮腫,食欲不振,便秘,呼吸困難,食欲不振,せん妄）
8. 血液疾患のある患者の看護（白血病）
9. 全人的苦痛のアセスメントと苦痛軽減への援助（事例演習）
10. コミュニケーション,意思決定支援,ACP,リビングウィル,緩和ケアチームアプローチ
11. 終末期における倫理的問題と看護

12. 補完・代替療法について,ハンドマッサージ (演習)
13. 非がん疾患患者の緩和ケア,感染症 (HIV)
14. 喪失・悲嘆のケア,家族ケア
15. 死の徴候と看取り時のケア,死亡後のケア,遺族ケア

成績の評価

期末時の筆記試験80%, 平常点20%

自己学習

シラバスに準じ、テキストの内容に目を通しておくこと。

履修上の注意

- ・積極的に文献を読み、討議に参加して思考を深めていけるようにすること。
- ・授業内容に応じて小テスト、課題レポート提出を求める。

テキスト

宮下光令：緩和ケア 成人看護学7 ナーシンググラフィカ, 2015
小松浩子他：がん看護学, 系統看護学講座, 別冊：医学書院 2013

参考文献

講義内で随時提示する

オフィスアワー

水曜日 12:00~13:00

研究室

5号館7階 C705研究室

授業用E-mail

kitae@kansai.ac.jp

講義コード	3N521011
講義名	成人看護展開論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3306
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北得 美佐子	指定なし

担当教員

北得 美佐子 井村 弥生 兒嶋 章仁 野田部 恵

講義の目的

成人期の健康障害のある事例に対して、看護理論を用いながら看護過程を展開する。また疾患の特徴やそれぞれの健康レベルにある対象者の理解と、看護援助を実施する際に必要な基礎的看護技術について学ぶ。

到達目標

1. 健康障害のある対象の看護過程の展開ができる。
2. がん患者の看護問題について述べるができる。
3. 糖尿病患者に必要な看護技術（血糖測定・インスリン注射・生活指導）について述べるができる。
4. 排泄経路の変更が生じた対象者への生活指導について述べるができる。
5. 周手術期の看護において必要な看護技術（観察）についてその理論と実践方法を述べるができる。

授業計画表

授業計画

1. 糖尿病をもつ患者の看護・看護過程①
2. 糖尿病をもつ患者の看護・看護過程②・食事指導・運動療法
3. 糖尿病をもつ患者の看護・自己血糖測定演習③
4. 化学放射線療法を受ける患者の看護・看護過程
5. 心不全をもつ患者の看護・看護過程①
6. 心不全をもつ患者の看護・看護過程②
7. 心不全をもつ患者の看護・看護過程③
8. 機能障害を持ちながら生活する人の看護・大腸切除術後の看護・看護過程①
9. 機能障害を持ちながら生活する人の看護・大腸切除術後の看護・看護過程②
10. 機能障害を持ちながら生活する人の看護・大腸切除術後の看護・看護過程③：生活指導

11. 機能障害を持ちながら生活する人の看護・大腸切除術後の看護・看護過程④：ストーマ交換
12. BLS演習
13. 周手術期の看護技術演習（大腸がん）
14. 術後観察・早期離床演習①（大腸がん）
15. 術後観察・早期離床演習②（大腸がん）

成績の評価

筆記試験50%、演習（課題レポート含む）40%、平常点10%にて評価する。

自己学習

シラバスに準じ、テキストの内容に目を通しておくこと。

履修上の注意

1. 積極的に文献を読み、討議に参加して思考を深めていけるようにすること。
2. 授業内容に応じて小テスト、課題に基づくレポート提出を求める。

テキスト

成人看護学Ⅰ～Ⅳで用いたテキスト、参考書、講義資料を持参。事前に指示する。

参考文献

講義内で随時提示する。

オフィスアワー

水曜日 12:00～13:00

研究室

5号館7階 C705研究室（北得） C718研究室（井村）

授業用E-mail

kitae@kansai.ac.jp

講義コード	3N522011
講義名	精神看護方法論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3309
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員

和田幸子・川端明雄

講義の目的

精神の病をもつ人々の生活支障によりその生活の質の向上がはかれるような看護に必要な知識を理解する。診断された精神疾患によって表出される症状は、患者の置かれた状況や発症に至る経緯、生育歴を含む個人要因によっても変化し、患者の全体像を総合的に理解することは容易ではない。コミュニケーションや観察をとおして患者の病の体験症状や表出症状から全体像の総合的把握につなげるために必要な知識を理解し、精神医療における入院治療の特徴をふまえ、入院中から退院後の生活を見据えた看護を志向できるような能力を養う。

到達目標

1. 主な精神疾患の症状、治療、看護の概要を理解する。
2. 精神科病院に入院中の看護について理解する。
3. 精神の病をもつ人々の地域生活支援の必要性と社会資源について理解する。

授業計画表

授業計画

1. 精神疾患と看護ケアー認知症
2. 精神疾患と看護ケアーうつ病
3. 精神疾患と看護ケアー強迫症／強迫性障害
4. 精神疾患と看護ケアーパニック障害
5. 精神疾患と看護ケアーアルコール使用障害（アルコール依存）
6. 精神疾患と看護ケアー摂食障害・パーソナリティ障害
7. 精神疾患と看護ケアー知的障害・発達障害（自閉症スペクトラム症）
8. 入院形態と精神科病棟の環境（閉鎖病棟・開放病棟・急性期治療病棟）
9. 安全管理と患者の権利擁護（事故防止・隔離・身体拘束・自己決定）
10. 精神科デイケア（作業療法、認知行動療法、SST）、精神科訪問看護
11. 家族システム、家族への支援
12. 当事者の体験談（外部講師）
13. 精神障害者の社会復帰における地域移行・地域定着支援への取り組み（外部講師）

14. 障害者総合支援法におけるサービス、インフォーマルサポート

15. 事例から学ぶリエゾン精神看護

成績の評価

試験70%、平常点（小テスト含む）30%

自己学習

指定されたテキストで単元の内容について予習をしておく。

履修上の注意

精神の病む人の理解は簡単ではないが、少しでもわかりたいとの思いをもって受講することを望む。日頃から当事者の書かれた著書を読んだり、学生同士で困ったことや相談などを行える関係づくりをして欲しい。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

参考文献

授業中に適宜紹介

オフィスアワー

研究室に在室している場合はできるだけ対応します。

研究室

5号館7階C702研究室 5号館7階C721（川端）

授業用E-mail

s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	3N523011
講義名	精神看護展開論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3310
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 和田 幸子	指定なし

担当教員

和田幸子・川端明雄

講義の目的

精神の病をもつ人の事例について、提供された紙面情報を検討することでアセスメントに必要な不足情報に気づき、意図的な看護介入を行うための計画立案を行う。セルフケア理論に基づく看護過程を展開することで精神看護に必要な知識・技法を整理し関連付け、看護計画についての論理的説明を行える能力を養う。

到達目標

1. 各事例における不足情報が検討できる。
2. 看護計画の内容について論理的な説明ができる。
3. 看護過程の一連のプロセス評価の視点が明確になる。
4. 事例展開に必要な知識を関連付けて理解できる。

授業計画表

授業計画

1. 授業ガイダンス 統合失調症の復習 セルフケアの視点
2. 統合失調症事例①－妄想・幻聴のある患者
3. " －妄想・幻聴の捉え方
4. " －妄想・幻聴への対応
5. 統合失調症事例②－事例説明・情報整理
6. " －不足情報の検討
7. " －アセスメント
8. " －計画立案
9. " －グループ発表・意見交換
10. うつ病事例③－事例説明・情報整理
11. " －不足情報の検討
12. " －アセスメント
13. " －計画立案
14. " －グループ発表・意見交換

15. まとめ

成績の評価

課題レポート40%、事例展開のワークシート30%、グループワークへの参加態度、質問・意見・発表などによる授業への貢献度20%、平常点10%

自己学習

事例で使用されている専門用語、疾患、症状に関連する知識、薬剤の作用・副作用など事例展開に必要な知識は自己学習する。

履修上の注意

個別ワークとグループワークで事例展開を行う。援助者が当事者にあるべき姿をあてはめるのではなく、当事者に寄り添うような視点で事例を検討する。グループワークには積極的に参加し、メンバー間の異なる意見の尊重やアサーティブな表現での発言を行うことで相互学習が促進できるようにする。

テキスト

「精神看護学Ⅰ精神保健・多職種をつながり（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

「精神看護学Ⅱ臨床で活かすケア（改訂第2版）」（南江堂）萱間真美・野田文雄編集

参考文献

「看護のための精神医学」（医学書院）中井久夫・山口直彦

オフィスアワー

研究室に在室している場合はいつでも対応します。

研究室

5号館7階C702研究室(和田) 5号館7階C721研究室(川端)

授業用E-mail

s.wada@kansai.ac.jp

講義コード	3N524011
講義名	成人看護学実習Ⅰ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	3
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3311
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 北得 美佐子	指定なし

担当教員

北得 美佐子, 野田部 恵

講義の目的

慢性的な健康障害をもつ個人を、成長段階を踏まえて身体的・心理的・社会的存在として捉え、対象者の健康にかかわる能力が発揮できるような看護を実践することができる基礎的能力を養う。

到達目標

1. 対象者をライフサイクルの中に位置づけ、看護の視点から総合的に理解し、記述することができる。
2. 対象者の健康障害に応じた看護過程を展開することができる。
3. 対象者の療養継続のために必要な医療・看護チームの協働・連携における役割を理解することができる。
4. 対象者の人格や人権を尊重した対応ができる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員としての役割を自覚して行動することができる。

授業計画表

授業計画

1. 実習については3年次後期9月に成人看護学実習Ⅰの要項にそって、実習施設や方法など、具体的にオリエンテーションを行う。
2. 3単位135時間（3週間）の実習期間について具体的なオリエンテーションは、実習初日に行う。その内容・方法などについては、成人看護学実習Ⅰの要項にそって詳細に行う。

成績の評価

目標到達度80%、平常点20%

自己学習

1. 既習の学修内容を整理しておく。
2. 事前学習については別途オリエンテーション時に説明する。

履修上の注意

1. 患者の安全・安楽、プライバシーの保護に十分配慮する。
2. 実習中は原則として実習指導者または担当教員の指導を受ける。
3. 看護実践は原則として実習指導者または担当教員とともに行う。
4. 患者の状態、実習に関する内容は、適切なタイミングで報告する。
5. 健康管理に努め、自らが媒介者にならないよう十分に注意する。

テキスト

成人看護方法論Ⅰの講義および関連科目で用いた用いたテキストや講義資料

参考文献

随時提示するが、主体的に学習する。

オフィスアワー

水曜日12：00～13：00

実習期間中は学内日

研究室

C705研究室

授業用E-mail

kitae@kansai.ac.jp

講義コード	3N525011
講義名	成人看護学実習Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	3
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	1時限
科目分類・分野名	臨床実践看護学
科目ナンバリング	N3-3312
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 井村 弥生	指定なし

担当教員

井村 弥生 児嶋 章仁

講義の目的

周手術期にある対象者を総合的に理解し、治療に伴う回復過程や社会生活への適応に向けて、主体的に取り組めるための周手術期看護を実践する基礎的能力を養う。また、危機的な状況にある対象者や家族への看護について考えることができる。

到達目標

1. 対象の病態および治療の目的を理解し、手術に伴う経過とその看護について理解する。
2. 治療に伴う形態機能の変化を受容し、適応に向けての援助を考えることができる。
3. 対象者の状況に合わせた看護計画を立案、実施評価、修正ができる。
4. 患者・家族の人格や人権を尊重した対応ができる。
5. 保健医療チームの一員としての役割を自覚した行動ができる。

授業計画表

授業計画

1. 詳細については、別冊看護学実習要項を参照のこと。

成績の評価

全記録類、事前学習、実習態度、カンファレンスなどの参加状況により総合的に判断する。

自己学習

1. 急性期病態学、および疾患の理解を深めておくように。
2. 事前学習課題を別途知らせます。実習初日までに実施のこと。
3. 実習期間中は、事前学習や授業資料などを持参のこと。

履修上の注意

1. 適切なタイミングで報告・連絡・相談する。
2. 実習記録は全てファイルに綴り、紛失することのないように注意する。個人情報の取り扱いには十分に配慮すること。
3. 行動計画は担当教員、実習指導者の指導を受け、患者の安全、安楽に留意すること。

4. 自分が感染者・媒介者とならないように感染予防に努める。

テキスト

1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
2. 成人看護学 成人看護技術 南江堂
3. 周手術期看護論 ニューヴェルヒロカワ

参考文献

1. 竹内登美子：講義から実習へ 周手術期看護 1・2・3・4・5 編著 医歯薬出版株式会社
2. 下間正隆：エキスパートナーズ Mook36 まんがで見る術前・術後のケアのポイント, 照林社

研究室

5号館7階C718研究室

講義コード	3N527011
講義名	老年看護展開論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3404
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 岩井 恵子	指定なし

担当教員

岩井 恵子・原 希代・川添 英利子

講義の目的

健康障害のある高齢者の看護に必要な看護を見出す能力を養う。

到達目標

- 1.加齢に伴う変化や疾病が高齢者の生活に及ぼす影響を理解できる。
- 2.健康障害のある高齢者の看護過程の展開ができる。

授業計画表

授業計画

- 1.オリエンテーション 肺炎患者事例（情報の整理）
- 2.肺炎事例（情報の整理およびアセスメント）
- 3.肺炎事例（看護問題の抽出）
- 4.脳梗塞事例（情報の整理）
- 5.脳梗塞事例（情報の整理およびアセスメント）
- 6.脳梗塞事例（看護問題の抽出）
- 7.脳梗塞事例（グループ発表）
- 8.大腿骨頸部骨折事例（情報の整理）
- 9.大腿骨頸部骨折事例（SP*情報収集、情報の整理およびアセスメント）
- 10.大腿骨頸部骨折事例（看護問題の抽出）
- 11.大腿骨頸部骨折事例（グループ発表）
- 12.大腿骨頸部骨折事例（看護計画の立案：追加情報あり）
- 13.大腿骨頸部骨折事例（SP*計画実践）
- 14.大腿骨頸部骨折事例（SP*計画実践の振り返り）
- 15.大腿骨頸部骨折事例（まとめ）

*SP=Simulated Patient(模擬患者)による演習

成績の評価

定期試験40%、演習レポート50%、平常点10点（グループワーク取り組み）にて評価

自己学習

老年看護学方法論Ⅰにて学習した、高齢者の加齢による変化とICFに基づく生活の視点を復習する。

履修上の注意

グループワークを中心として行う。

電子カルテ、SP（模擬患者）を用いた演習を行う。

テキスト

ナーシング・グラフィカ

老年看護学（1）：高齢者の健康と障害（メディカ出版）

老年看護学（2）：高齢者看護の実践（メディカ出版）

参考文献

講義の中で適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

メールで事前に連絡をいただければ調整可。

研究室

5号館7階C701号室（岩井） C710号室（原） C721共同研究室（川添）

講義コード	3N528011
講義名	在宅看護方法論Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3407
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎田 聖子	指定なし
教員	前久保 恵	指定なし

担当教員

前久保 恵・榎田 聖子・鹿島 英子

講義の目的

在宅で療養する人にみられる主な疾患と症状の特徴と在宅ケアを理解し、日常生活活動維持への訪問看護の関わり方および在宅での医療処置に必要な知識と技術を理解する。

また、在宅療養者と家族の意思を尊重した生活支援における看護の役割および在宅ケアのすすめ方を学習する。

到達目標

- 1 在宅療養者の健康障害や生活状況を理解し、健康障害が家族の生活全体に与える影響について考えることができる。
- 2 在宅療養者及び家族の個別性に応じた援助の方向性を考えることができる。
- 3 社会資源の活用や関係者の連携・協働が在宅療養の継続を支えていることを理解できる。

授業計画表

授業計画

- 1) ガイダンス：在宅療養生活の継続支援に必要な看護の特徴
- 2) 廃用症候群
- 2 脳梗塞後後遺症のある療養者の日常生活支援
- 3 障がいをもつ人のQOLを高める支援①
- 4 障がいをもつ人のQOLを高める支援②
- 5 障がい児看護①
- 6 障がい児看護②
- 7 障がい児看護③
- 8 在宅酸素療法を受ける療養者の日常生活支援
 - 1) 疾患・症状・治療・合併症・経過と標準・継続看護の理解
- 9 在宅酸素療法を受ける療養者の日常生活支援

- 2) 毎日の体調の観察・自己管理への支援方法、社会資源の活用、リスクとその回避方法
- 10 在宅人工呼吸療法を受ける療養者の日常生活支援
在宅で人工呼吸療法を受ける人の特徴と適応、合併症の予防と療養支援
- 11 難病療養者の日常生活支援(神経難病他)①
- 12 難病療養者の日常生活支援(神経難病他)②
- 13 褥瘡ケア
14. 終末期（がん）の療養者の日常生活支援
15. 在宅療養を支える社会資源

成績の評価

筆記試験・平常点

自己学習

既習学習の復習をしておくこと。

履修上の注意

学生自身および家族の生活をイメージして在宅看護を捉える。

テキスト

「新体系 看護学全書 在宅看護論」 メヂカルフレンド社 河野あゆみ編

参考文献

「在宅看護技術」第3版 メヂカルフレンド社 正野逸子・本田彰子編

「リハビリテーション看護論」第2版 ニューヴェルヒロカワ 中西純子・石川ふみよ編

講義コード	3N529011
講義名	在宅看護展開論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類・分野名	老年・在宅実践看護学
科目ナンバリング	N3-3408
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 榎田 聖子	指定なし

担当教員

榎田 聖子・鹿島 英子・前久保 恵

講義の目的

状況別にみた在宅での療養者と家族の支援について、具体的な事例を通して生活の中で遭遇する看護上の問題について個人ワーク及びグループワークで考えを深める学習をする。

また、看護展開を進める上で必要な知識・技術面の習得を図る。

到達目標

- 1 在宅療養者と家族が安心して安全に希望する生活が維持できるための支援方法を理解する。
- 2 意見交換を行い、1つの事象でも色々な捉え方があることを理解する。
- 3 相手の話を聴き、自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。

授業計画表

授業計画

- 1 ガイダンス：在宅療養者と家族の支援に必要な看護
- 2 在宅で脳梗塞後遺症で片麻痺の療養者の看護
- 3 在宅で脳梗塞後遺症で片麻痺の療養者の看護
- 4 在宅で脳梗塞後遺症で片麻痺の療養者の看護
- 5 在宅で療養するALSの方の看護
- 6 在宅で療養するALSの方の看護
- 7 在宅で終末期にある療養者の看護
- 8 在宅で終末期にある療養者の看護
- 9 在宅で在宅酸素療法を受ける療養者の看護
- 10 事例展開演習：個人ワーク（提出）
- 11 事例展開演習：グループワーク
- 12 事例展開演習：グループワーク
- 13 まとめ：発表の準備
- 14 事例演習：発表
- 15 事例演習：発表

成績の評価

- 1 課題レポート（①個人ワーク②発表からの学びのワークシートを提出）（90%）、
- 2 グループワークへの参加態度（10%）

自己学習

既習学習の復習をしておく。

終末期看護論、慢性期看護論、リハビリテーション看護論など

履修上の注意

積極的に意見交換を行うこと。

テキスト

「新体系 看護学全書 在宅看護論」 メヂカルフレンド社 河野あゆみ編

参考文献

- 1 「在宅看護過程」（メヂカルフレンド社）正野逸子・本田彰子編著
- 2 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン」（照林社）
江川隆子監訳

講義コード	3N534011
講義名	障害者と感染症の保健活動
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4 時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N3-4201
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員

室谷牧子 平尾恭子 西井崇之

講義の目的

障がい、難病、感染症をもつ人々とその家族の地域生活における支援ニーズと保健福祉施策について学び、地域における保健福祉活動の実際を理解する。さらに、地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

到達目標

1. 障がい、難病、感染症をもつ人々とその家族の地域生活における健康課題および支援ニーズを理解する。
2. 障がい、難病、感染症をもつ人々とその家族を支える保健福祉施策（法令、制度）について知る。
3. 障がい、難病、感染症をもつ人々に対する地域保健福祉活動の実際を理解する。
4. 地域ケアシステムにおける看護職の役割を考察する。

授業計画表

授業計画

- 1回 ガイダンス 障がい者を取りまく社会の変遷～相模原事件を考える～
- 2回 保健・福祉・医療・地域の連携と共生社会の実現、障がい者保健活動とグループの育成・支援を考える
- 3回 障がいをもつ子どもと家族の支援ニーズと保健活動①
- 4回 障がいをもつ子どもと家族の支援ニーズと保健活動②
- 5回 難病対策の動向
- 6回 難病保健活動①：対象に合わせた支援の展開
- 7回 難病保健活動②：難病患者の尊厳を守る地域包括ケアの実現に向けて
- 8回 ハンセン病対策の動向と次世代の役割
- 9回 感染症対策の変遷と現状の理解（海外・国内）
- 10回 感染症対策と保健活動①：身近な感染症
- 11回 感染症対策と保健活動②：結核対策
- 12回 感染症対策と保健活動③：STD

- 13回 精神保健活動①：精神障がい者と家族の現状と支援ニーズ
14回 精神保健活動②：統合失調症をもつ患者・家族への支援
15回 精神保健活動③：こころの健康づくり

成績の評価

試験（小テスト含む）70%、レポート20%、平常点10%にて評価する。

自己学習

既習科目について復習し、下記の理解を深めておくこと。

1. 公衆衛生の理念、公衆衛生看護活動の方法および技術
2. 講義内容に関連する疾患
3. 障がい・難病保健および感染症対策に関わる法令、制度

その他、講義で配布したプリントは必ず次回までに精読する。

履修上の注意

1. 学生が住んでいる地域に関心を持ち、自分自身また家族の生活と関連させて公衆衛生看護を捉える。
2. 受け身にならず主体的に学習し、学生自身の考えを深める。
3. 携帯電話、飲食物は机の上に置かない。私語厳禁とする。
4. 遅刻、欠席、早退をする（した）場合は必ず本人が直接教員に申し出て、講義の資料を直接受け取り、課題の確認を行なうこと。

テキスト

1. 「第4版 公衆衛生看護学jp」（インターメディカル）荒賀直子他著
2. 「国民衛生の動向2015/2016」（厚生統計協会）
3. プリント配布

参考文献

適宜紹介する。

オフィスアワー

昼休み

研究室

5号館7階C709研究室(室谷)、5号館7階C711研究室(平尾)、5号館7階共同研究室(西井)

授業用E-mail

muroya@kansai.ac.jp

講義コード	3N535011							
講義名	家族看護論							
(副題)								
開講責任部署								
講義開講時期	前期							
講義区分								
基準単位数	1							
時間	0.00							
代表曜日	木曜日							
代表時限	3 時限							
科目分類・分野名	公衆衛生看護学							
科目ナンバリング	N3-4202							
対象学科・学年	保健看護学科・3年							
必修/選択	選択							
担当教員								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>氏名</th> <th>所属</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教員</td> <td>◎ 平尾 恭子</td> <td>指定なし</td> </tr> </tbody> </table>			職種	氏名	所属	教員	◎ 平尾 恭子	指定なし
職種	氏名	所属						
教員	◎ 平尾 恭子	指定なし						
担当教員								
平尾恭子								
講義の目的								
<p>家族に対する看護は地域（家庭）だけでなく、臨床（病院）においても対象者（患者）とは切り離せない重要な看護である。本科目では、看護に用いる理論および家族看護過程について学び、事例を通して家族看護の理解を深めるとともに、臨床場面における家族看護の実際について学び、看護職の役割を考察する。</p>								
到達目標								
<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族および家族看護に用いる理論について理解できる。 2. 家族に対するアセスメントおよび家族看護過程について理解できる。 3. 事例を通して家族に対する看護過程を展開し、対象および家族に必要な看護を考えることができる。 4. 臨床場面における家族看護の実際を知り、看護職の役割を考えることができる。 								
授業計画表								
授業計画								
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、家族とは、家族看護とは 2. 家族看護に用いる諸理論 3. 家族看護過程 4. 事例を通して家族看護を考える① 5. 事例を通して家族看護を考える② 6. 家族看護の実際①（家族支援専門看護師による特別講義） 7. 家族看護の実際②（ " ） 8. まとめ 								
成績の評価								
試験70%、レポート20%、平常点10%								

自己学習

公衆衛生看護学および他の看護学の授業において学ぶ家族の理論について復習しておくこと。

履修上の注意

1. 保健師課程の選択に関わらず、ぜひ履修してください。
病院で働く家族支援専門看護師の特別講義を計画しています。
2. 受け身にならず主体的に学習し、学生自身の家族看護に対する考えを深めてください。
3. 私語は厳禁とします。
4. 携帯電話、飲食物は鞆の中にしまい机の上に置かないこと。

テキスト

プリントを配布します。

参考文献

随時、提示します。

オフィスアワー

水曜・午後

研究室

5号館7階C711研究室

授業用E-mail

kyo.hirao@kansai.ac.jp

講義コード	3N536011
講義名	公衆衛生看護支援論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	月曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	公衆衛生看護学
科目ナンバリング	N3-4203
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 室谷 牧子	指定なし

担当教員

室谷牧子

講義の目的

健康教育とヘルスプロモーションの立場から、個人や社会が抱えている健康課題の解決策を、PDCAサイクルに基づく公衆衛生看護の過程の一連のプロセスについて、保健指導・健康教育の実践を通して理解を深める。

到達目標

- 1) 公衆衛生看護活動を実践する基盤の一つとなる健康教育や健康学習についてその基礎理念を理解する。
- 2) 模擬事例を用いて個人や地域の健康課題を解決するためのテーマ設定、指導案の作成、健康教育の実施、評価の過程を展開することができる。
- 3) 集団に対する健康教育を実施することにより、健康教育に必要な基本的技術を習得できる。

授業計画表

授業計画

- 1回 公衆衛生看護のプロセスと健康教育の概念
- 2回 ヘルスアセスメントの必要性和行動変容を促す保健指導
- 3回 事例のアセスメントと保健指導の立案①
- 4回 事例のアセスメントと保健指導の立案②
- 5回 保健指導の実際① 演習
- 6回 保健指導の実際② 演習
- 7回 健康教育の方法と媒体
- 8回 地域アセスメントの方法
- 9回 健康教育の立案 企画から評価項目の設定 演習
- 10回 健康教育の準備①シナリオ、媒体作成 演習
- 11回 健康教育の準備②シナリオ、媒体作成、健康教育のデモンストレーション 演習
- 12回 健康教育のデモンストレーション・修正 演習
- 13回 健康教育の実施 演習
- 14回 健康教育の実施 演習

15回 健康教育の評価 コミュニティオーガニゼーションとソーシャルキャピタルを意識した健康教育の展開

成績の評価

評価は演習50%・試験20%、レポート20%、平常点10%にて評価する。

自己学習

公衆衛生看護活動の方法については公衆衛生看護概論、ライフサイクルと保健活動、健康教育論での学習内容を復習しておくこと。日常から健康に関する社会のニュースに関心を持ち、自分なりに情報を整理しておく。事業の展開に合わせ必要な学習と作業を計画的に行うこと。

履修上の注意

演習はグループワークが中心となる。授業ごとに提示するテーマを授業内で個人やメンバー協働で主体的に取り組み、スムーズに演習を進めるスキルが求められる。好奇心を持って意欲的に取り組みグループダイナミクスを醸成してください。

テキスト

1. 「第4版 公衆衛生看護学.jp」 (インターメディカル) 荒賀直子他著
2. 「国民衛生の動向2015/2016」 (厚生統計協会)
3. 配布資料

参考文献

随時提示する

オフィスアワー

昼休み

研究室

5号館7階C709研究室

授業用E-mail

muroya@kansai.ac.jp

講義コード	3N537011
講義名	助産学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類・分野名	助産学
科目ナンバリング	N3-4301
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 田中 静枝	指定なし

担当教員

田中静枝

講義の目的

助産学の基本的知識および視座を獲得する。

到達目標

1. 助産とは何かを考察できる。
2. 助産師の定義と業務範囲を比較検討できる。
3. 助産学における理論を理解できる。
4. 助産分野における倫理的課題について説明できる。
5. 助産師の専門性と責任を説明できる
6. 助産の文化歴史を理解することができる。

授業計画表

授業計画

1. ガイダンス、助産の概念
2. 助産師の定義と業務
3. 助産学を支える理論
4. 助産師と倫理
5. リプロダクションに関する解剖・生理
6. 性の行動と理論
7. 助産の歴史と文化

成績の評価

レポート及び平常点により総合的に評価する

自己学習

授業計画に沿って、予習を行う事

履修上の注意

助産師としての土台作りとなる授業です。主体的に望みましょう。

テキスト

「助産学講座1」「助産学講座2」 医学書院

参考文献

別途提示する

オフィスアワー

随時可能も事前に予約を入れること。

研究室

5号館7階C703研究室

授業用E-mail

s.tanaka@kansai.ac.jp

講義コード	3N538011
講義名	看護にいかすアロマセラピー
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
科目分類・分野名	看護学専門展開
科目ナンバリング	N3-4405
対象学科・学年	保健看護学科・3年
必修/選択	選択

担当教員

職種	氏名	所属
教員	◎ 百合 邦子	指定なし

担当教員

百合邦子

講義の目的

本講義では、自己の心身ケアのみならず、昨今では統合医療としてメディカル面での活用がなされているアロマセラピーの基礎知識を修得する。

到達目標

アロマセラピーの基礎知識と現在行われている研究を学修することにより、アロマセラピーを的確に用いることができるようになる。

授業計画表

授業計画

- 1.アロマセラピーのしくみ
- 2.アロマセラピーの利用法
- 3.精油についてⅠ
- 4.精油についてⅡ
- 5.アロマセラピーと健康的なライフスタイル
- 6.アロマセラピーの研究
- 7.その他（まとめ、実習など）

成績の評価

筆記試験 80%，平常点 20%

自己学習

精油は楽しくかつ安易に使用できるが、人体に影響を与えるものである。安全に使用できるよう学修したことをまとめておくこと。

履修上の注意

精油は濃度が高いため、近距離での吸入や手指への原液の付着がおこらないよう取り扱いに注意する。教員の指導に注意を払うこと。

テキスト

特になし。

参考文献

1. 『アロマセラピー検定テキスト 1級』 (社団法人 日本アロマ環境協会) 鳥居鎮夫 監修
2. 『アロマセラピー検定テキスト 2級』 (社団法人 日本アロマ環境協会) 鳥居鎮夫 監修
3. 『日本アロマセラピー学会エビデンス集ー過去10年間 (2002~2011年) の歩み・論文集ー』 一般社団法人 日本アロマセラピー学会

オフィスアワー

未定。

研究室

診療・研究棟3階教員室

授業用E-mail

yuri@kansai.ac.jp